

## 新羽末広関連幹線の整備効果事例

- 鶴見川流域では、日産スタジアムのある鶴見川多目的遊水池や雨水貯留管整備など、国・地方公共団体が連携して総合治水対策を推進。
- 横浜市の下水道事業としては、市内最大の貯留管「新羽末広幹線（410,000m<sup>3</sup>）」および関連幹線等を整備。
- 令和元年度の台風15号や台風19号などで効果を発揮し、浸水被害の発生を防止・軽減。



## これまでの主な実績

- 平成26年 台風18号  
1時間最大雨量74.5mm（泉区）  
24時間最大総雨量403.5mm（旭区）  
貯留量 380,000m<sup>3</sup>（実績最大値）
- 令和元年 台風15号  
1時間最大雨量80.5mm（鶴見区）  
24時間最大総雨量208.5mm（栄区）  
貯留量 264,000m<sup>3</sup>
- 令和元年 台風19号  
1時間最大雨量38.0mm（旭区）  
24時間最大総雨量313.0mm（青葉区）  
貯留量 75,000m<sup>3</sup>



新羽末広幹線（内径6,500mm部分）



ポンプ施設

## 新羽末広幹線 概要（関連幹線等を含む）

流域面積：約4,500ha  
 貯留容量：約410,000m<sup>3</sup>  
 延長：約20km  
 管径：内径 3,000mm ~ 8,500mm  
 排水ポンプ能力：5.0m<sup>3</sup>/s × 2台  
 整備期間：平成5年～平成25年